

科目名	国語表現 (R4 課程)			単位数	4 単位
教材	教科書：国語表現 (東京書籍)			添削指導 (レポート)	全 12 回
	副教材：国語表現ワークブック (東京書籍)			面接指導 (スクーリング)	4 時間
学習評価 (観点別評価)		添削指導	面接指導	定期試験	放送 ※希望者のみ (東京書籍インターネット講座)
	知識・技能	60%		40%	
	思考・判断・表現	60%		40%	定期試験
主体的態度	80%	20%	0%		
単位の認定	①レポート：規定回数のレポートを提出し、合格すること。 ②スクーリング：規定回数の全ての回に出席すること。 ③定期試験：前期試験、後期試験を受けること。 ④評定は、観点別評価をふまえ総合的に判断する。達成状況と評定の関係は次の通りとする。 〔～2割：1、2割～4割：2、4割～7割：3、7割～9割：4、9割～：5〕				

指導計画			
科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
単元・学習内容	スクーリング回	レポート回	放送 (東京書籍インターネット講座)
表現とは何か ・冒頭の文章や「表現の窓」の文章を読んで、「表現とは何か」について考える。		1	①教科書の内容に対応する動画をすべて視聴すること。 ②単元テストの問題にすべて取り組むこと。 ①②を完了した場合、面接指導 (スクーリング) の出席回数を最大で 2 時間減免できる。
分かりやすく説明しよう ・情報を整理し、「相手」「内容」「目的」「状況」に応じて、分かりやすく伝える方法を身につける。		2	
身体で表現しよう ・自分の身体が表現しているものについて考えを深める。		3	
「問い」を考えよう ・問う力・質問力が自他の表現および思考の質に大きく関わることを認識し、その種類や機能を学び、活用法を習得する。	1	4	
「自分」を表現しよう ・自己分析を行い、第三者の意見も踏まえて、客観的に「自分」を把握する。		5	
論理的な文章を書こう ・現代社会のトピックに対して、問題発見・課題分析を行い、問題解決能力を養う。	2	6	

<p>話し合う力をつけよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合意形成を目的とする話し合いの展開パターンと、それを支えるファシリテーションの概念および基本的なスキルを学ぶ。</li> </ul>	3	7	
<p>表現と読書活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本を紹介し合う活動を通して、さまざまな本と出会い、読書の楽しみを知る。</li> </ul>		8	
<p>情報活用力を身につけよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正確な情報を見極め、その情報を目的に合わせて効果的な表現で発信する。</li> </ul>		9	
<p>説得力のある提案をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提案内容を受け入れてもらうために、効果的で印象的なプレゼンテーションの仕方や、相手の心を動かすのに必要な身体表現（発声・身振り）や態度などについて学び、説得力のある表現について理解する。</li> </ul>	4	10	
<p>表現を楽しもう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・俳句、短歌、エッセー、物語など、いろいろなジャンルの作品創作を通じて、言葉を用いて表現することを楽しむ。</li> </ul>		11	
<p>心をつかむ表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活上のことも含めた「表現」活動を振り返り、今後の「表現」をだいにする気持ちを養う。</li> </ul>		12	